

戯曲・朗読劇台本

【往復書簡】

「満月コバルトブルー」

作 ササキタツオ

《登場人物》

田口トオル（17）高校生

矢野サナ（17）高校生

《本編》

◆ 3月 ◆

サナ「桜は散るために咲いている。だから美しい。そんな話を聞きました。田口君、さようなら。クラスではあんまり話したことなかったけど。私は君のことをよく知っていました。いつも学校の図書室で本を借りていくこと。借りた本は必ず期限までに返すこと。真面目というか、マメというか、ルールを破れない人というか。それが私の田口君の印象の全てです。田口君が転校するって、東京に行くって聞いて、私、ずっと考えていました。考えた結論は、こうです。私と文通してくれませんか？ 住所を書いておきます。静岡の田舎者と言葉を交わすのはおイヤかもしれませんが、いいお返事待っています。矢野サナ」

トオル「突然のお手紙。拝読しました。正直、困ります。僕は矢野さんとは全然話したこ

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

ともないし、女子のきまぐれ、悪い悪戯かもしれないって、思っています。第一、高校生にもなって文通だなんて、バカバカしいです。だからきっぱり断わらせてもらいます。迷惑です。一応お返事は書きました。これは礼儀であって、矢野さんと文通もする気はありません。丁重にお断りします。さようなら。田口トオル」

サナ「田口君。気の利いたお返事ありがとう。
田口君のそういうところ、私は好印象です。決してこれは思い付きの悪ふざけではありません。安心してください。田口君なら必ずお返事くれるって信じていました。さて。ここからが本題です。もうすぐ東京だと思っただけど、改めて、これから私と本当に文通を始めませんか？ 面倒くさいかもしれないけど、手紙って古風で証拠が残る感じがなんかいいな、って思っています。お返事待っています。矢野サナ」

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

トオル「矢野さんへ。正直、僕はどうしたらいいか困っています。矢野さんは悪い人ではないとは思いますが、僕にはいささか不気味に見えます。気を悪くしたらごめんなさい。でも、なんか、証拠が残るとか、そういうのって、どうなんでしょう。僕は昔の小説をよく読みますが、まるでそんなふうに、僕たちの会話が積み重なっていくのかと思うと、なんだか奇妙で、おかしいです。そういうの書簡体小説って言うんですけど。あ、なんだかまとまりがなくなっしまいました。でも、まだ、もう少し考えさせてください。一応、東京の住所、書いておきますが、一応です。田口トオル」

サナ「田口君。もう文通ですよ、これは。私と話してみるの、意外と楽しいのではないですか？ 私は田口君と話せて楽しいです。私の春休みのテーマは、悪質な女子グ

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

ループと2年で同じクラスにならないように毎日近所の神社に行ってお祈りをすることです。暇人かと思われるかもしれませんが、私の人生にとっては一大事なのです。ちなみに、この手の願いが叶った試しは今までに一度もありません。矢野サナ」

トオル「なんだかまんまと矢野さんの作戦と
いうか、術中にはまってしまったようで悔
しいです。お返事が来るとお返事を出さな
いといけないって、そんな気になります。
僕の責任感を利用するのはやめてくださ
い。お願いします。追伸。返事はこれが最
後です。どうか、よろしくお願いします。
田口トオル」

◆ 4月 ◆

サナ「田口君。お返事ありがとう。田口君と
の文通できることが、他の女子たちに秘密
を持ったみたいで、私は勝った気がしてい

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

ます。なんだか利用したみたいでごめんなさい。春休みが終わって、私はまた嫌な女子たちと同じクラスになってしまいました。最悪に悲しいです。そういえば、田口君は小説をよく読むんですか？ 私はそういうのはよくわからないんですけど。でも、読んでみたいって思っています。何かおすすめの本はありますか？ 矢野サナ」

トオル「矢野さんへ。観念しました。僕の負けです。すっかり暖かくなりましたね。僕も新しい学校で戸惑う毎日です。高校生で途中からの転校生って、とても異質なようで、友達は当分できそうにありません。しばらくは図書室に引きこもっていきましょうかと思っっています。おすすめの本と言われて、色々読み返してみていたんですけど、僕のおすすめは【若きウエルテルの悩み】です。この本の著者はドイツのゲーテという人で、この本が出た当時は、それはとても人

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

気だったらしく、本の内容を真似して自殺する人が出るくらい人気があったらしいです。あ、軽くネタバレですね。でも、よかったです読んでみてください」

サナ「本の紹介ありがとう。早速、読みました。難しい本で、私にはまだ早かったみたいです。田口君は私の思っていた以上にすごい知識のある人だったんですね。知りませんでした。田口君との文通だけが今の私の生きがいです。学校では、相変わらず、女子たちは嫌味の言い合いです。よく飽きないものだと思います。ずっとずっと。続いています。いっそみんな死ねばいいのについて、思っています。あ、不謹慎でした。ごめんなさい」

トオル「田口です。本、難しかったですか？ごめんなさい。手紙が小説になっているというのが面白いと思ったんです。それはさ

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

ておき、矢野さんのいじめは続いているの
ですか？ 少し、いや、結構、心配してい
ます。矢野さんは突拍子もないことをする
人だけど、悪い人じゃないと思うので、き
つと理解してくれる人が現れると思いま
す。それまでは、まあ、僕とか、つなぎで
誰かとつながっていればいいのではない
かと思う次第です。それでは。また」

サナ「心配かけてしまったみたいでごめんな
さい。私は元気です。いきなりですが、田
口君。これからは、トオル君と呼ばせてく
ださい。親愛をこめて。トオル君と私だけ
が呼ぶのは卑怯なので、私のことはサナと
呼んでください。呼び捨てで大丈夫です。
それでは。また。追伸、パンとご飯だった
らどっち派ですか？」

トオル「名前を呼ぶなんて、さすがにできま
せん。矢野さんは矢野さんです。呼び捨て

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

とか、そういう問題ではないんです。追伸。
僕はパン派です」

サナ「私はご飯派です。特におにぎり大好きです。それにしても、どうしたら私の名前を呼んでくれますか？ 今日嫌なことがあったので遠回りをして帰りました。歩道橋から見上げた夕焼け空の白い月がとてもキレイだったことを書いておきます」

トオル「いや、だから、名前は呼べません。嫌な事……なんだか矢野さんが大変というのは心配ですが……。でも、名前では呼びませんので、よろしくお願いします」

サナ「理由を教えてください。私の日課は、嫌なことがあると遠回りして帰ることなんですよ。覚えておいてください。それにしても最近月はきれいです」

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

トオル「理由？ それは……いきなり親しくなるように見せても、心の距離が近くなければ、結局、意味がないと思うからです。名前を呼ぶって親しみだと思っからです。見せかけの友情とか、矢野さんも嫌いではないですか？ 僕は小さい頃から転校を繰り返してきました。そこでは、なんとなくの友達はできましたが、ずっと続く友達というのはできませんでした。だから、こうして、矢野さんと文通できることは貴重だと思っていますし、大切にしたいと思っていますので、だからこそ、矢野さんは矢野さんでいきたいです。どうか、理解してください」と嬉しうです」

サナ「なんとなくですが、わかりました。私が焦っていたのかもしれませんが、私、いじめられているって話したけど、それは結構ひどくって、無視されたり、教科書なくな

ったり、机と椅子が校庭に捨てられていた
りして。日に日にひどくなつてて。それで、
最近、学校に行けなくなりました。残念で
すが、不登校というやつです。自分がまさ
かそんなふうになるなんて思ってもみま
せんでした。小学校の頃は皆勤賞だったの
に。人生何が起こるかわかりませんね。な
ので、外との世界のつながりは、実は、こ
の手紙だけだったりするんです。だから、
どうか、私のこと、見捨てないでください。
お願いします」

◆ 5月 ◆

トオル「見捨てるとか、そんなことしません。
でも、学校へ行けていないのは、大変です
ね。いつそ転校するのはどうですか？ そ
うすれば、今までと違う環境、違う人間関
係、違う人種と出会えます。リセットです。
そんなに言うほど簡単じゃないし、僕の場合、
親の都合なんで仕方なかったからなん

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

ですけど。そういう選択肢もアリなのかな
って思います。ちなみに僕は、新しい学校
には全く馴染めていません。図書室ばかり
行っています。その分読みたい本は増えて
います。田口」

サナ「トオル君へ。しばらくぶりのお返事で
ごめんなさい。でも、私は元気です。どう
やら私も転校することになりそうです。い
じめに負けたようで嫌ですが、それでも、
トオル君の言うようにリセットするつも
りで頑張ってみようと思っています。追伸、
新しい住所書きました。埼玉です。両親の
実家があるんです。東京都はお隣さん。近
くなりましたね。今度はそこにお手紙送っ
てください。よろしく願いします」

トオル「矢野さんへ。大変な時にお手紙あり
がとう。僕は矢野さんが心配です。何かあ
ったら言ってください。矢野さんが新しい

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

ところで頑張ると決めたことは応援して
います。矢野さんは心が強いイメージがあ
ります。だから、新しい場所であれば、きっ
とうまくいくと思います。月並みな言葉で
すが、頑張ってください」

サナ「トオル君へ。ありがとう。新しい学校
は私のこと何も知らないから、どんな私で
も受け入れてくれる感じがして、ちょっと
期待しています。毎日こんなに楽しかった
んだと思っています。遠回りして帰ること
もなくなりました。トオル君と同じ関東
になったので、会いに行こうと思えば、会
えますね。でも、トオル君は私になんか会
いたくないかな？ 私、頑張ってみます。
頑張ります。矢野サナ」

◆ 6月 ◆

トオル「梅雨になりましたね。お元気ですか。
その後、手紙のお返事書けなくてごめんな

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

さい。ちよつと、今、両親がもめてて、色々大変なんです。大人って……親って、何を考えているのかわかりません。愛し合っているはずなのに、すれ違ったり、喧嘩したり……。なんだかバカバカしいです。物事は単純でいいように思うのですが、僕が子供だから、そういう大人の事情みたいなものがわからないだけなのででしょうか？ 愛情について矢野さんはどう思いますか？」

サナ「この雨の季節が私は一番好きです。心が落ち着きます。静かに雨の音を聴くのはどうでしょう？ トオル君の心も落ち着くのではないのでしょうか？ 私の方は、新しい学校にもだいぶ慣れました。はじめて友達もできました。トオル君ほど心の内を話せるわけじゃないけど。友達と呼んでもいい関係の人ができたことは率直に嬉しいです。愛情の問題。両親の問題って難し

いですよね。私は物心ついた時から、母親
だけだったので、そんなに両親の愛情問題
について考えたことは、実はありません。
母は、私のことをとても心配してくれます
し。私から言えることは、人間だからすれ
違うこともあるのかもしれないってこと
で。とにかく、いい方向に行くことを祈っ
ています。追伸。今度どこかで会いませ
んか？」

◆ 7月 ◆

トオル「矢野さんへ。すっかり梅雨が明けま
した。夏もいよいよという感じの今日この
頃です。お元気ですか？ いきなりの申し
出に、僕は結構戸惑っています。別にイヤ
とかではないんです。でも、なんかこの関
係って、会わないからこそ成立するものな
のかな、なんて思ったりして……。両親の
話をします。結局、離婚とか、そういうこ
とにはならず済みました。大人って本当

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

にわかりません。昨日まで喧嘩していたのに翌朝はすっかり何事もなかったかのよう、同じテーブルで朝食を食べるんです。平然と。僕にはその感覚がよくわかりません。東京に来てから両親は喧嘩することが増えたように思います。それもなんだか嫌で。以前のような家族の雰囲気ではなくなってしまっていて。うまく言葉にできなくて、すみません。それで、会うかどうかの話ですが、夏のテストが終わってからお返事してもいいですか？ よろしくお願いします。田口」

サナ「この前、満月だったの、見ましたか？ 私はとても感動しました。トオル君は家族思いなんですね。優しい気持ちはこちらまで伝わってきます。テスト終わりで、了解しました。いいお返事を期待して待っています」

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

トオル「満月、見逃しました。田口です。僕は優しいのでしょうか。そんなこと言われたことないので、よくわかりません。本当に僕なんかと会いたいですか？」

サナ「会いたいです。追伸。一緒に新宿御苑歩きたいです。それで思いつき遠回りして帰りたいです」

トオル「わかりました。でも、遠回りは嫌いではなかったのですか？ 一応、8月のスケジュールを書いて送ります。都合のいい日で予定を合わせができたらと思います。お返事お待ちしております」

サナ「トオル君、ありがとうございます。お会いできるのがとても楽しみです。よろしくお願いします。矢野サナ」

◆ 8月 ◆

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

トオル「この前は、暑い中よく歩きましたね。

東京が珍しいと言った矢野さんのこと、僕はちよつと理解できませんでした。別に、何も特別なことはないと思うからです。でも、新宿御苑は意外でした。都会のビル群の真ん中にあんなオアシスみたいなひらけた場所があるなんて。また、機会があったら歩いてみてもいいかもしれません。それではまた。田口」

サナ「私たちちつて、いったいどんな風に周りに映っていたのかな？ 恋人かな？ 友達かな？ それとも、兄妹かな！？ 恋人だといいなと私は思います。そうそう。新宿のスタバでお茶をした時のトオル君の挙動不審さにはびっくりしました。ひたすら周りの視線を気にするトオル君がいて。私はそれを可愛いなって思ってた。さっき、恋人だといいなと言いましたが、訂正します。私たちは本当に本当の友達になったん

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

だと思っています。追伸。連絡先、交換するの
忘れましたね。私たちらしく引き続き文通
ですかね」

トオル「そうだ。連絡先交換すればよかった
ですね。でも、これはこれでいい気がしま
す。友達からの、月に1回か2回届く手紙。
郵便受けを毎日確認するようになった自
分を見つけて。意外と楽しみにしているの
かなって思ったりして。矢野さんもそうだ
といいな、とか思ったりして。僕たちは僕
たちらしくで、いいかな、って思います」

サナ「夏休みもあつという間に終わりますね。
私も手紙が来るの楽しみにしています。ト
オル君が楽しみにしてくれているなら、毎
日でも手紙を書いてもいいぐらいです。で
も、それはさすがに迷惑ですよ。私も今
まで通り、続いていけばいいなって思いま
す。追伸。今度の満月は一緒に見ましょう」

◆ 9月 ◆

トオル「矢野さんへ。今日はちよつとした相談がありお手紙を書きました。実は、告白というものをされました。相手は、同じクラスの女子で、図書委員で一緒の子です。別に悪い人ではないと思うのですが、僕は判断に困っています。付き合うとか、そういうの、今まで全然考えてこなかったから、イメージができないということがあるのかもしれない。こんな相談ができるのは矢野さんだけなので……。一体、僕は、どうしたらよいのでしょうか？」

サナ「トオル君へ。それを私に相談するのですか？ 正直に相談してくれたこと自体は、嬉しかったです。でも、私以外にいないのですか？ 私はちよつと複雑な気分です。心の内は察してください。だから、今回は相談の答えは書きません。自分で決

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

めてください。それが正しいと思うから。
以上」

トオル「矢野さんへ。なんだか気分を害して
しまったみたいで、ごめんなさい。恋愛と
いうものが僕は全く分かりません。今まで
誰かを思うのが恋だと思っていました。

【若きウェルテルの悩み】でもあったよう
に、届かない感情に押しつぶされそうにな
るのが恋だと思っていました。相手から思
われるのは、僕にとっては恋というより、
想定外の事態なのです。だから、こんなこ
とになって困っています。相手のことを思
うと、なんて言葉を搔いたら正解なのか、
わからないと言いますか、どうしたらいい
のか本当にわかりません。でも、相談する
とか、じゃないですよ。自分で決めます。

田口」

サナ「自分で決めてください。サナ」

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

◆ 10月 ◆

トオル「断りました。田口」

サナ「なぜですか？ 私には理解できません。思いを寄せてくれた子が可哀相ではないですか？ トオル君は一体どういうつもりで生きているのですか？ サナより」

トオル「矢野さんにそう言われると困ってしまいますが、それが正しいと思ったからです。田口より」

サナ「どうして正しいと思ったんですか？ サナより」

トオル「それは、手紙に書くには。言いにくいですが。言葉にできないというか。難しいです。田口より」

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

サナ「なぜですか？ サナより」

トオル「察してください。田口より」

サナ「ズルいです。サナ」

トオル「……ごめんなさい。田口」

◆ 11月 ◆

トオル「矢野さんへ。先月の満月は観ましたか？ 秋のブルームーンというやつらしいです。あれから、返事が来ないので、僕の方から、お手紙を書きました。僕は、気づいたのです。僕が大切に思っているのはなんなのかということ……。それについてご相談したいので。もう一度会えませんか？ 田口より」

サナ「ブルームーン。私も見ました。満月つてどこまでも白くて透き通っているのが

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

私、好きなんです。だから、ブルームーンは、ちよつと邪道に見えました。青みがかっついて、それがなんか嘘っぽくて。本物の満月じゃないみたいで……。嘘つき満月。あ、そうだ。日程でしたね。私もトオル君に話したいことがあるので。私たちらしく、決めましょう。空いている日にちを書いておきます。お返事ください。サナ」

◆ 12月 ◆

トオル「先日は、冬の新宿御苑からのいつものスタバで、ずいぶん話しましたね。楽しかったです。最後に、何か言いかけたのは、何だったんですか？ 結局聞きそびれてしまったのですが。教えてくれると嬉しいです」

サナ「手をつなぎましたね。もちろん恋人ではないので、正確には、握手ですが。私たちはそれでよかったんだと思います。本当

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

に私はどうかしていました。なんか、勘違
いっていうか、恥ずかしいっていうか。い
つの間にか、近くにおいて、近すぎて、触る
のも怖いって感覚。わかりますか？ 私は
何を言っているのでしょうか。今度は連絡
先も交換できたので。これからはスマホで
やり取りできますね。よろしくです。サナ」

トオル「初めまして。田口です。初めまして
はおかしいですね。でもスマホって違和感
ありますね。いつも手紙なので。送信」

サナ「確かに。送信」

トオル「今度会えるのは冬休みですかね？」

サナ「わかりません」

トオル「忙しいですか？」

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

サナ「わかりません」

トオル「それは、よくわかりません」

サナ「わかってください」

トオル「ええと。じゃあ、わかりました」

◆ 1月 ◆

サナ「あなたが好きです。削除」

サナ「あなたが好きです。削除」

サナ「あけましておめでとうございます。今日は、久しぶりにお手紙を書きます。なんだか手紙じゃないと私は思いをうまく形にできないようで。スマホだと、書いては消してを繰り返してしまつて永遠にお返事が書けないのです。結局意味がなかったですね、スマホ。少なくとも私には」

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

トオル「遅くなりましたが、あけましておめでとうございます。返信がないな、と思っ
ていたら、手紙が届いたので、驚いていま
す。正直、僕は矢野さんにすっかり嫌われ
てしまったのかと思っていました。どうや
ら、手紙を読む限り、そうではなさそうな
ので、安心と言ったらおかしいですが、ホ
ッとしました。やっぱり僕らには、スマホ
じゃなくて手紙がいいみたいですね。僕も
こっちの方が好きです」

◆ 2月 ◆

サナ「トオル君へ。突然ですが、手紙、これ
で最後にしたいと思います。だから、私の
正直な気持ちを書き綴ります。私は、ずっ
と、田口トオル君、あなたのことが好きで
した。いつも図書室の片隅で本を読んでい
るあなたは気づいていないのが悲しいくら
あなた

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

い、私は貴方を見ていました。でも、
だけど、トオル君は、私の気持ちを
知っているのに、知らないふり
を続けていて、それで、違
う女の子に告白されたことも
平気で言ってくるし、デリカ
シーのない人だなんて、キ
ライになりかけたこともあ
りました。でも、やっぱり私
はあなたが好きなんです。
この気持ちは、遠回りした
帰り道にお月様に願
い事をするぐらい、私の中
では奇妙で届かないことだ
と思っています。でも、言
わせてください。トオル君、
好きでした。さようなら。
矢野サナ」

トオル「矢野さんへ。お手紙、
何度も読み返しました。そ
して、僕も決めました。言
いたいことを言います。今
月も満月がきれいだったと
いうことと、矢野さんにも
う一度会いたいということ
です。僕は、矢野さんが好
きです。でも、矢野さんは
そんなことはないんだとず
っと思っていました。矢野

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

さんは、どこか僕との距離に安心しているような、そんな気がしていたんです。いや、違いますね。距離感に甘えていたのは僕の方かもしれません。でも。だから、矢野さんの気持ちを知って、僕は、もう一度、ここに日程を書きます。予定の会う日、いつでもいいので、お返事ください。待っています。いつもの待ち合わせた新宿駅の改札で。矢野さんを待ちます」

サナ「お手紙ありがとうございます。私はもう一度、あなたに会うことはできません。会ったら、きっと泣いてしまうから。そんな顔見られたくないから。私はもうあなたとは会いません。さようなら。……以上です」

◆ 3月 ◆

トオル「もう一度、会いたいです。削除」

トオル「桜が満開になった新宿御苑で。削除」

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

トオル「もう一度、会いたいです。削除」

トオル「矢野さんへ。もう一度手紙を書いて
しまいました。どうかそのことは許してく
ださい。これで僕からも手紙は本当に最終
にします。今月もいつものように満月を見
ました。矢野さんもきつと見ているだろう
な、と思いました。そこで僕はわかったん
です。はつきりと、今までにないくらい。
はつきりと。でも、なんと言えばこの気持
ちが伝わるのか。どのように言葉にしたら、
僕の心が届くのか。僕は、もう一度、矢野
さんに会いたいです。ほかの誰でもなく、
もう一度会いたいのは矢野さんなのです。
予測できない毎日の中で、目まぐるしく変
わる世界の中で、今日あった些細な出来事
を一番最初に話したくなる人、それが矢野
さんなのです。強くて、でも、もろくて、
奔放で、自由で、元気で、そんな矢野さん

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

なのです。どうかこの手紙が矢野さんの心に届くことを願っています。田口トオル」

サナ「お返事にお返事するか本当に迷いました。トオル君の気持ち嬉しかった。でも、私たちの心の距離は、会えば埋められるものでしょうか？ 私たちは、お互いをこれからもずっと大事に思い続けられるでしょうか？ 私にはわかりません。自信もありません。現在も未来もわからないから、もう会いに行くこともしません、絶対に。だから、大好きな、トオル君。ごめんさい。でも、私たちはこのままでいるのが一番いいと思うのです。追伸、もし今月、満月が見えたら、お手紙ください。見えなかったら、お返事はいりません。矢野サナ」

トオル「今月も満月、見えました。とてもきれいでした。田口トオル」

戯曲「満月コバルトブルー」
作 ササキタツオ

サナ「本当に、満月って、うそ偽りなく、きれいですね。ありがとうございます。矢野サナ」

(おわり)